

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192700058		
法人名	株式会社 ケアトピック		
事業所名	グループホームきりん		
所在地	岐阜県高山市新宮町791-1		
自己評価作成日	平成26年11月10日	評価結果市町村受理日	平成27年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JivovosvoCd=2192700058-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成26年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームきりんではくもん学習療法を週5日継続し認知症状の予防・維持に努めています。地域のつながりについては地元の盆踊り・文化祭へ出かけて交流を楽しんでいます。そのほか市内観光やランチなどへ外出も行なっています。昨年に引き続き今年度も入居者様と温泉にも行ってきました。出来る事は出来るだけ自分たちで行なっていたり出来るよう居室掃除・茶碗拭き・散歩など当たり前の日常生活ができるよう支援もしています。グループホームきりんの理念として「ゆっくり・やさしく・自然な笑顔」を掲げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームきりんは2年目を迎え、独自の理念を職員全員で話し合い、「ゆっくり、やさしく、自然な笑顔」を掲げ、会議などで周知し職員や家族にも理解を深める取り組みをしている。運営推進会議には自治会長、老人会長、行政担当者、利用者・家族など多くの方の参加があり、情報交換の場となっている。会議で得た情報から展示物の提出やバザーでの買い物につなげたり、ボランティアの受け入れも家族から申し出があり運営に活かしている。四季折々の外出の他、温泉でお風呂に入り昼食を摂るなど、色々工夫を凝らしている。利用者にとって外出することが五感への刺激となり得たいものであると捉え、地域行事への参加も積極的に行い外出は今後も続けていきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お客様や地域の進歩・発展に貢献できるような事業所の理念を設定し、それに伴い職員が共有している。	昨年の外部評価を受け事業所独自の理念をスタッフと一緒に話し合い、「ゆっくりと、やさしく、自然な笑顔」と掲げ、会議の時に唱和し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会に加入し、地域の盆踊り・例祭など行事に参加している。	地域の行事に参加し、バザーで買い物を楽しんだり、文化祭には展示物を出展したり、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町内会長様・長寿会様など出席をして頂き、交流を図っている。また、散歩中なども顔なじみの人と会話など楽しんでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者様・御家族様・行政の方に参加して頂き取り組みなど報告しています。職員だけでなく御家族様同士でも交流を持ってもらっています。	会議には、自治会長、老人会長、行政担当者、利用者・家族の殆どが参加し、情報交換の場となっている。展示物の提出やバザーでの買い物につなげ、またボランティアの協力を好意的に家族から申し出があり運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者の方に取り組みを報告します。また課題や意見を頂き今後の取り組みに活かしています。	介護申請などの代行業務を行っており、成年後見制度を利用している方もあり、市の担当者とは連絡を密に取り信頼関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今まで身体拘束はしていません。但し、やむえない場合については御家族様と相談をしご理解していただいてから対応します。玄関の施錠もしないようにしています。	身体拘束は基本的に行っていない。しかし夜間のみ危険防止の為、ご家族の了解の下、センサーを利用している。勉強会で具体的な行為などを正しく理解するよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症研修会をグループホームで行いました。その中で拘束に関する勉強も行き、見える拘束だけでなく見えない拘束・言葉の拘束なども理解できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議のなかで福祉の話(成年後見人制度)の講演会を開きました。職員・家族様にたいしても可笑しく分かりやすく話をして頂きました。家族様に対して今後も学習の場を持っていきたいと思ひます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、本人様・家族様に重要事項説明書について説明しています。家族様の了承も得て契約しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会時・電話など要望をお聴きし、返答できるよう心掛けている。玄関にはご意見箱を取り付けて手紙でも相談できるよう対応しています。	推進会議には多くの家族の参加があり、家族会となっている。誕生日に食べたいもの等の希望を聴き個別対応している。家族やボランティアの協力で温泉に行き、レストランで食事をするなど運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のグループホームの会議にて代表者も出席し話し合いをもっている。また、随時話し合いの機会がもてるようにもしている。	不定期にケース会議や定期的に開催する会議など、代表者の参加もあり、現場の声を良く聞いてもらえ、話しやすい雰囲気がある。職員研修に積極的に参加できるような配慮があり、ミーティングで報告し共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各住宅ごとにチームをつくり課題に向かって取組みを行なっている。またその結果を年2回会社全体で発表し、評価をもらいやりがいいに繋げている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は社内外の研修の機会を積極的に確保している。また役割分担を行い力が発揮できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ケアマネジャーの会議・医療連携の勉強会等に参加して情報を交換・交流を図っています。またその情報を職員で共有するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問調査を行い困っていることや不安なこと・要望がないかなど聞いています。本人が安心できるような環境や言葉かけを行なっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の聞き取り調査などで相談をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医師の診断書、ケアマネの意見書、本人・家族よりの要望により必要とされている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段よりされていた仕事、掃除を共に行い日常生活において一緒に買い物に外出したりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との面会時など要望・意見を聴いたり相談したりしている。また、受診などの外出は御家族に協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居者様の地元へのドライブを行なっている。またグループホームにも親戚や友人の面会があったりと馴染みの方との関係を築いている。	友人知人の訪問が多くあり、また同法人の他事業所の利用者との行き来もあり、馴染みの関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が定期的にはリビングへ出てきて会話をしたり、天気の良い日には玄関前のポーチでみんなでお茶を飲んだり楽しんで過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も困らないように次の入居施設に情報を伝えています。家族にも安心して頂けるようにいつでも相談出来る関係を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を大切に考えその人らしい暮らし、生きがいをもってもらえるように情報を職員が共有している。	入浴時は個別対応となるためコミュニケーションが取り易く、ゆっくりと話ができるので利用者も担当者に話し易く、思いが把握できる場と捉えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らしを本人・家族から聞き取りをしてアセスメントをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中・夜間など生活記録に記入し、引き継ぐ職員に申し送りを行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議などで支援の仕方を職員同士で話し合いを行ったり、主治医の指示・助言など頂いて課題を出し合っている。	担当者が主となり、評価や見直しを行いプランに結びつけている。ケアマネジャーはケアしながら情報収集しプランに反映させている。しかし、プランと個別記録のケア内容に整合性に欠けるところがある。	介護計画に沿ったサービスの実践がおこなわれているか、個別記録で確認できるような記録の書き方を職員間で検討されることを希望する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気になることを個別ケアシート・生活記録などに記入して相談し、実践してみる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接している施設のイベントに参加したりその利用者と交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周りを散歩したり近所の人・子供達と話を楽しんだりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の体調を職員が観察し気になることがあれば家族と相談、毎月の往診もあり、適切に医療を受けられるように支援している。	入居前からの本人希望の医師・医療機関も受診でき、連携も十分取られている。家族同行で受診しているが、時には職員も付き添うことで相互の情報共有もなされ介護に活かされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師2名勤務し、その中の1名が24時間連絡がとれるようになっている。状態変化があれば看護師に相談・指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月1回の往診時に看護師が対応し情報を頂いている。また、入居者のかたの情報を病院関係者に連絡し、情報を得ている。また入院時には医療連携室との連絡を密にし今後の対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を御家族様に説明承諾を頂いている。また、入居者のかたの情報を病院関係者に連絡し、情報を得ている。また、入院時には医療連携室との連絡を密にし今後の対応に努めている。	「看取り指針」が整備され、家族にも繰り返し説明されている。管理者・職員は終末ケアについて理解し、その時がくれば利用者の状況に応じた対応をする協力体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網にて家族様・職員・看護師などすぐに連絡できるようにしてあり、事務所の引き出しに救急隊員にすぐ渡せる書類も保管してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災などの避難訓練を実施し、入居者が実際に外まで避難を行なった。また、他の住宅との連絡体制も築いている。	消防署の協力を得て避難訓練を年2回行い、災害対応も全職員で積極的に取り組んでいる。訓練結果も次回に向けての反省材料として記録され、情報共有が出来ている。	備蓄品に関し、ホーム独自で整備することで賞味期限や数量把握の管理が出来ると思われる。防寒対策も含め是非検討の上実行して頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについてのチェック表を作り、職員が言葉かけに対して丁寧に対応できるように取り組んでいる。	利用者に対する声かけや職員同士の会話にもホームの理念である“ゆっくり・やさしく・自然な笑顔”そのままが実行され、気配りが感じられた。問題があれば、管理者を通し常に注意喚起できるようになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	確認する声掛けを忘れないようにし、本人様に自己決定をできるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の希望を優先してその人のペースで生活できるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前に本人様と一緒に着替えの服を選びます。外出時も日頃とは違う洋服を選び外出をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特別メニューを毎月考え四季の料理を提供しています。また誕生日には本人様の好きなものをメインに食事を作ります。下膳も出来る方には行なってもらっています。茶碗拭き等の片づけもして頂いています。	食材サービスを利用し職員が調理している。利用者も様々な場面で係りを持ち、食への関心につなげている。月・木は買い出しから参加し、職員も昔ながらの郷土料理を作り、共に食し健康管理へとつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外にも毎朝クリクラの水を飲んでいきます。10時には牛乳・15時には紅茶など水分補給をすすめています。管理栄養士のメニューの食事提供をしています。又、食事以外にもすべてに毎日記録をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の声掛けにて口腔ケアを実施していますが、個別に支援の必要な方に対しては介助しています。用具の清潔保持は職員が行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を記録しそのひとつのひとにあってトイレ誘導、生理用品を用いて行なっています。	管理者・職員は利用者の様子を敏感に察知し、本人の生活リズムにそった支援となっている。失敗することがあっても自尊心が傷つくことのない対応がとられ、本人の自信へと繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日水分補給をしてもらい、便秘気味のかたにはプルーン・薬など調整している。胃腸の調子の悪いかたには主治医とも相談しながら食事を刻み食にしたりとして提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回、以前は午前中であったがゆっくりは入れるように午後からの入浴時間とする。浴槽内の湯加減はその人その人に合わせて気持ち良く入れるよう支援しています。	入浴は利用者と職員のスキンシップやコミュニケーションが取れる大切なものと捉え、見守りの中思い思いに楽しむ工夫がなされている。寒い冬場は足浴をしたり、季節を感じる菖蒲湯・りんご湯・ゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は自分の居室・畳の部屋でゆっくり昼寝をされる。また、リビングでテレビをみたり落ち着いて過ごせる環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬が職員が把握できるようにファイルに綴じてある。また、新しく処方された薬は看護師が申し送りノートに記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗拭き・掃除・洗濯物たたみ・金魚のえさやりなど、その人の出来ることを行なってもらっている。また気分転換に散歩など外の空気を吸ってもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花の水やり、世話等暖かい日には外に出て職員と共に作業したり、買い物外出へと誘いの声を掛けさせて頂いています。又、外出時も出来る限り職員も支援させて頂ける体制を取り本人様の希望を叶えられるように家族の協力をお願いしています。	四季折々の外出の他、入浴のための温泉で昼食を頂くなど色々工夫を凝らしている。利用者にとって外出することが五感への刺激となり得がたいものであると捉え、地域行事への参加も積極的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は家族と相談をして事務所で管理しています。必要なときは保管しているお金を入居者に渡し使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様と電話をするときは職員が取り次いで施設内の電話をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からは遠くの山脈が見え春夏秋冬と四季を感じることが出来ます。周りにも建物が少なく静かな環境です。廊下には入居者様と一緒に作った作品も飾ってあります。	自然の採光や風が感じられる天窓があり、大きな窓には自然の風景が開かれ、ゆったりと寛ぐ利用者の笑顔が見られるそんな共有空間となっている。広いリビングに続く和室にも炬燵が置かれ、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが主に生活されるスペースですが、好きな時に居室へ戻ったり置の部屋で暮らせるようにしています。。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやソファなど馴染みの物を持ってきていただいています。壁には写真や時計など好きなように飾ってありご本人様が気持ちよく暮らせるよう家族様と相談しています。	個人の生活の継続を大切に思うホームの気持ちを感じられる居室である。利用者は自分の持ち物や作品に囲まれ、その人の日常が見えるホッとする部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設は平屋の造りとなっており玄関から廊下、居室までバリアフリーとなっており、転倒のリスクが少ない造りです。廊下も一本で見守りもしやすくなっています。また名称をなじみの表現で表示しています。		